

米軍基地環境カルテ

キャンプ・コートニー（施設番号：FAC6029）

沖縄県

改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。
第3版	令和8年2月	「沖縄の米軍基地（令和6年3月沖縄県）」及び「環境白書（平成27年度報告～令和5年度報告沖縄県）」の内容を反映させた改訂。

目 次

27. キャンプ・コートニー（施設番号：FAC6029）	27-1
27.1 基本情報	27-1
27.1.1 名称	27-1
27.1.2 所在地、広さ（施設面積）	27-1
27.1.3 施設の概要等	27-2
27.1.4 施設の管理及び用途	27-3
27.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	27-3
27.1.6 土地利用規制図	27-3
27.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	27-3
27.2.1 基地等の土地の状況	27-3
27.2.1.1 地形分類図	27-3
27.2.1.2 表層地質図	27-3
27.2.1.3 土壌図	27-3
27.2.1.4 切盛土分布図	27-4
27.2.2 基地内の施設の使用状況	27-4
27.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	27-4
27.2.2.2 施設等使用履歴	27-5
27.3 基地等の環境状況	27-7
27.3.1 自然環境（植物）	27-7
27.3.1.1 現存植生図	27-7
27.3.1.2 植生自然度図	27-7
27.3.1.3 特定植物群落	27-7
27.3.1.4 重要な種、貴重な種等	27-7
27.3.2 自然環境（動物）	27-7
27.3.2.1 重要な種、貴重な種等	27-7
27.3.3 水利用状況	27-8
27.3.3.1 水利用状況	27-8
27.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	27-9
27.3.3.3 河川及びダムの分布状況	27-10
27.3.4 地下水の状況	27-10
27.3.4.1 地下水基盤面等高線図	27-10
27.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	27-11
27.4.1 事故等の概要	27-11
27.4.2 事故等発生場所	27-11
27.5 環境調査を実施する場合の留意事項	27-11
27.6 その他情報	27-12

27.7 環境等に関する通常監視について	27-13
----------------------------	-------

27. キャンプ・コートニー（施設番号：FAC6029）

27.1 基本情報

27.1.1 名称

キャンプ・コートニー（施設番号：FAC6029）

27.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：具志川市

広 さ：約 1,439 千㎡

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf）を参照

<令和 6 年 3 月現在>

所在地：うるま市（字昆布、字天願、字宇堅）

広 さ：1,339 千㎡

地主数：1,126 人

駐留軍従業員数：305 人

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

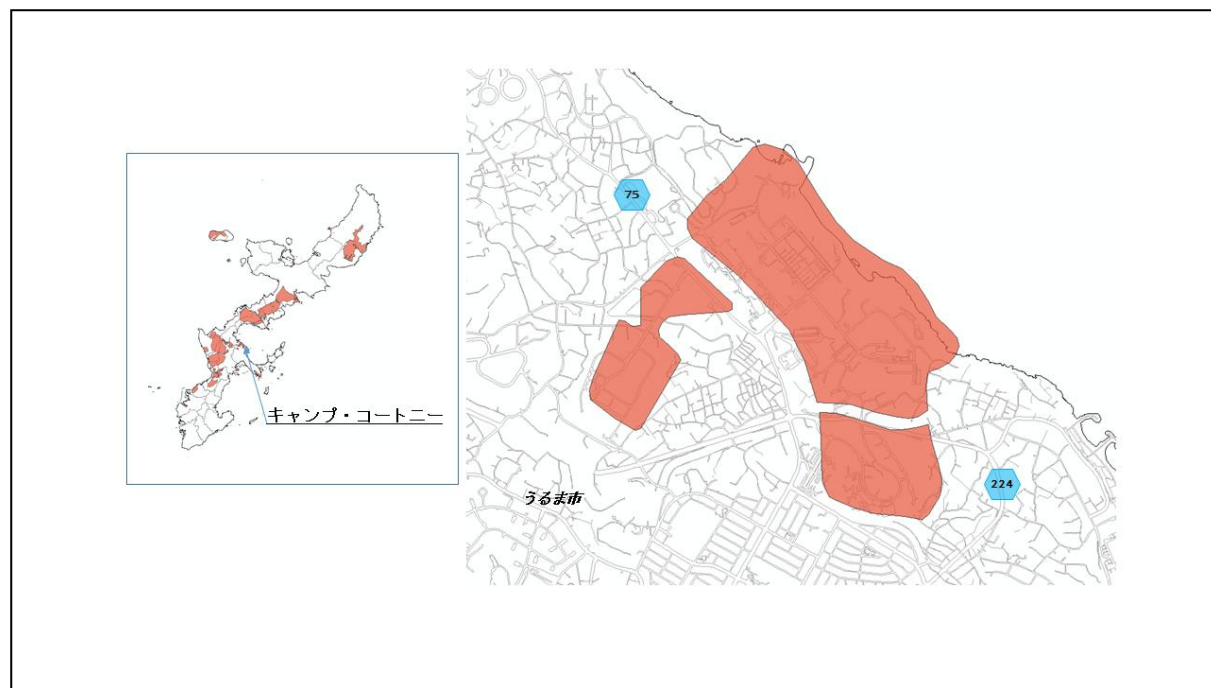


図 27-1 キャンプ・コートニーの位置図（平成 28 年時）

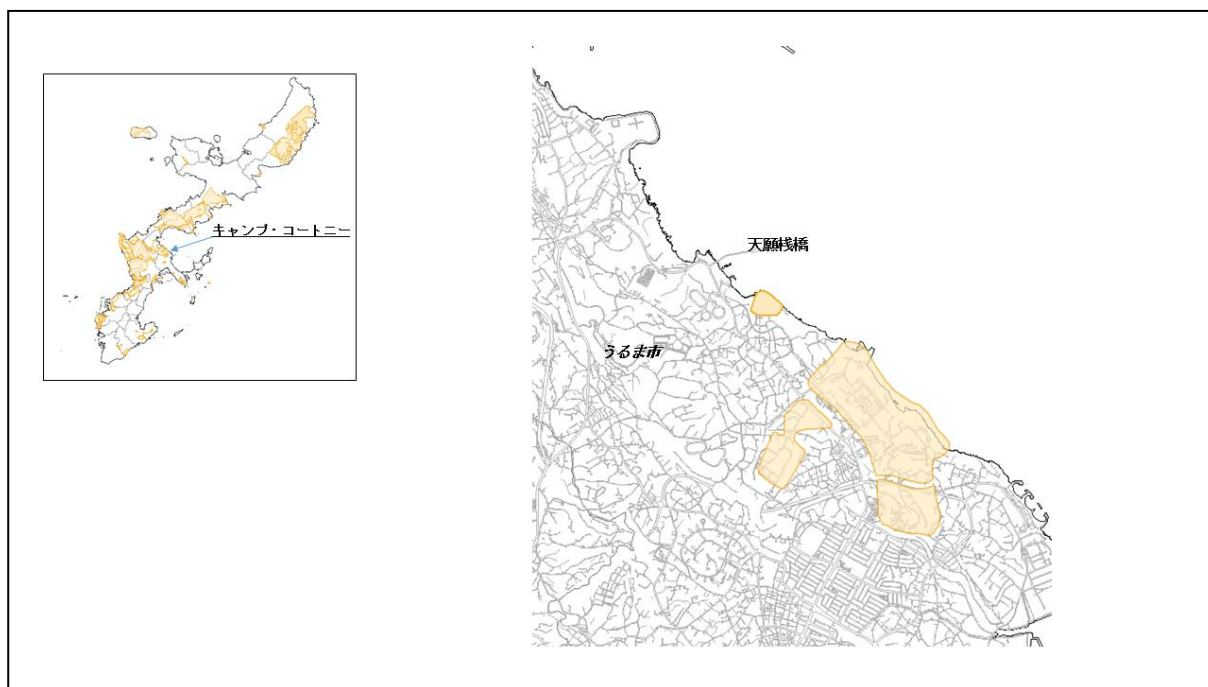


図 27-2 キャンプ・コートニーの位置図（昭和47年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成25年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

図 27-3 キャンプ・コートニーの航空写真

27.1.3 施設の概要等

この施設は、金武湾に面するうるま市字天願の北側に位置し、第3海兵遠征軍及び第3海兵師団の司令部があることで知られており、主として宿舎、事務所として使用されている。

当地区は、大半が宿舎等の施設用地となっており形質が変更されているが、周辺部の急斜面及び金武湾沿岸などに樹林地が残されている。

この施設に司令部を置く第3海兵遠征軍は、米国海兵隊の3つの遠征軍の1つで、有事に際し、空陸一体となった即応作戦を展開する実戦部隊である。

施設内には、教会、劇場、診療所、体育館、家族住宅等が整備されている。

さらに、提供水域（第2区域）として、施設に面した海岸地先から沖合 500 メートルまで水陸両用車の訓練場となっているが、ほとんど使用されていない。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

27.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：米海兵隊太平洋基地在沖米海兵隊基地司令部

使用部隊名：第3海兵遠征軍司令部、第3海兵師団司令部、第3海兵師団司令部本部大隊、
第3海兵遠征旅団司令部

使用主目的：宿舎、管理事務所及び訓練場

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

27.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

<返還計画>

なし。

<跡地利用計画>

策定されていない。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

27.1.6 土地利用規制図

キャンプ・コートニー及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図B」に示す。

27.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

27.2.1 基地等の土地の状況

27.2.1.1 地形分類図

キャンプ・コートニー及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図B」に示す。

27.2.1.2 表層地質図

キャンプ・コートニー及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図B」に示す。

27.2.1.3 土壌図

キャンプ・コートニー及び周辺の土壌図を図面集「土壌図B」に示す。

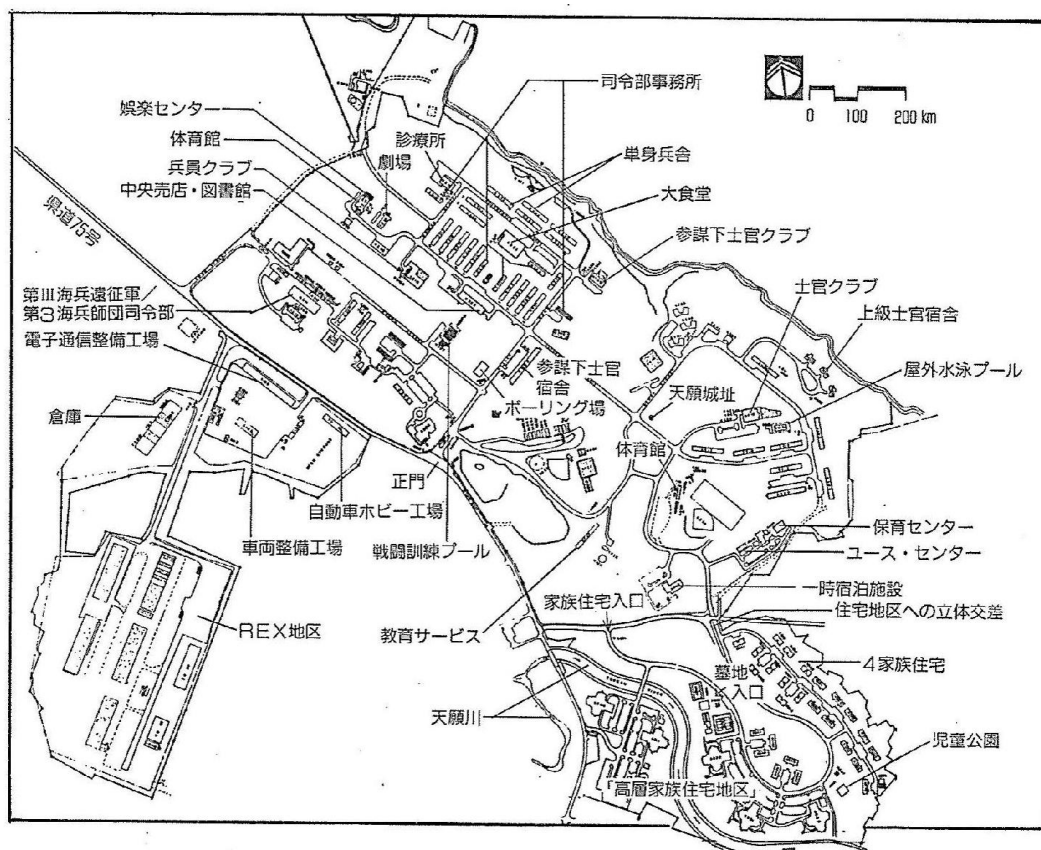
27.2.1.4 切盛土分布図

キャンプ・コートニーの切盛土分布図は作成されていない。

27.2.2 基地内の施設の使用状況

27.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

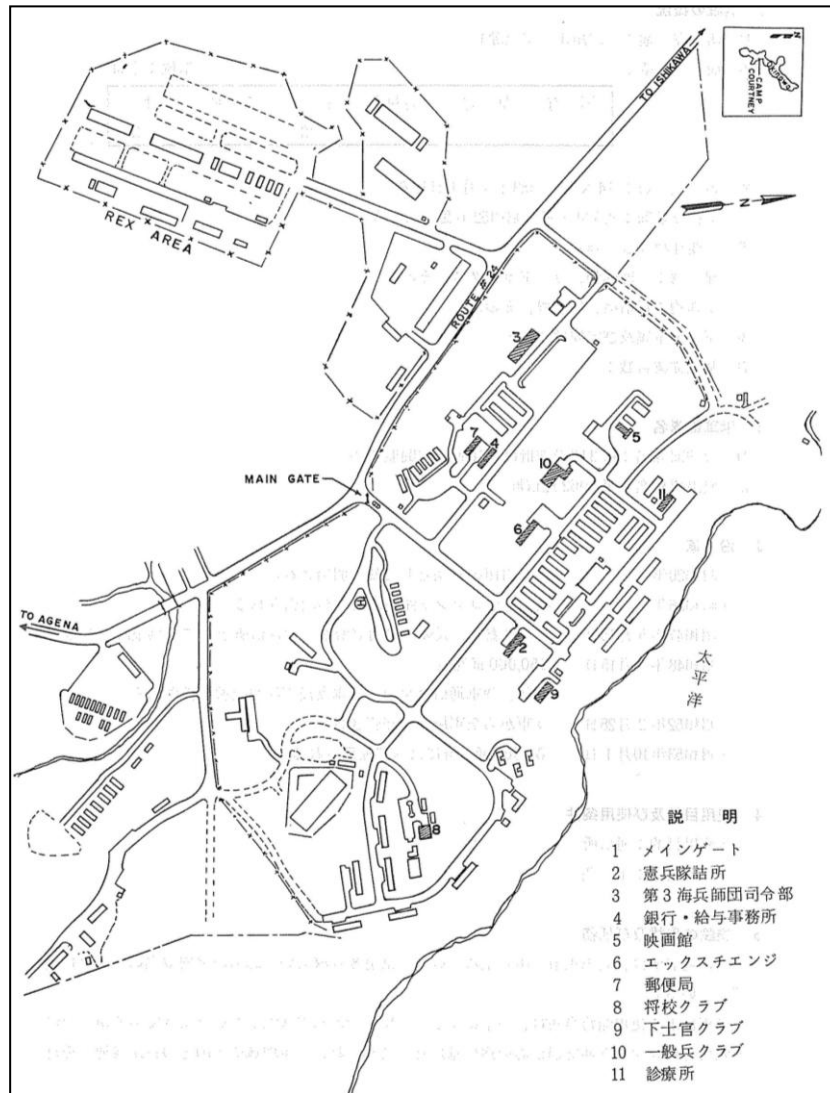
キャンプ・バトラー米海兵隊基地施設技術部「キャンプ・コートニー・マスタープラン」（1986年2月、情報公開法にもとづく公開）を基にしたキャンプ・コートニーの施設配置図を図 27-4 に示す。



出典：「情報公開法でとらえた沖縄の米軍」（1994、梅林宏道）から引用

図 27-4 キャンプ・コートニーの施設配置図

「沖縄の米軍基地」で確認したキャンプ・コートニーの施設配置図を図 27-5 に示す。



出典：「沖縄の米軍基地」（昭和54年3月、沖縄県渉外部）から引用

図 27-5 キャンプ・コートニーの施設配置図

27.2.2.2 施設等使用履歴

昭和20年	米陸軍の物資集積所及び兵舎として使用開始。
昭和33年	米海兵隊基地として使用。
昭和40年10月	在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ・マクトリアスから移転。
昭和44年11月	在沖米海兵隊基地司令部が再びキャンプ・マクトリアスに移転。
昭和46年6月30日	約396,000㎡を返還。
昭和47年5月15日	提供施設・区域となる。
昭和49年5月	昭和46年6月30日に返還された一部(約139,000㎡)が自衛隊に提供され、海上自衛隊具志川送信所として使用開始。
昭和49年5月31日	採石場用地約52,000㎡を返還。
昭和52年1月27日	保安柵として、REX地域を除いた工作物（囲障）を追加提供。

昭和 57 年 8 月 12 日	宿舎等として、建物約 4,600 m ² と工作物（鉄塔等）を追加提供。
昭和 57 年 9 月 20 日	汚水処理施設として、建物約 110 m ² と工作物（囲障等）を追加提供。
昭和 58 年 10 月 31 日	第 15 回安保協了承部分の土地約 294,600 m ² （南側部分）を返還。
昭和 58 年 11 月 1 日	住宅用地として、土地 238,100 m ² を追加提供。
昭和 59 年 2 月 10 日	宿舎として、建物約 2,400 m ² と工作物（舗床等）を追加提供。
昭和 60 年 10 月 31 日	通信施設として、工作物（アンテナ等）を追加提供。
昭和 61 年 7 月 11 日	教会として、建物約 1,000 m ² と工作物（舗床等）を追加提供。
昭和 61 年 10 月 2 日	住宅として、建物約 550 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
昭和 62 年 9 月 18 日	家族住宅等として、建物約 87,000 m ² を追加提供。
昭和 62 年 11 月 29 日	消防施設として、建物約 590 m ² を追加提供。
平成元年	家族住宅 26 戸完成。
平成元年 3 月 23 日	隊舎等として、建物約 22,000 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成元年 10 月 26 日	厚生施設として、建物約 1,400 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 2 年 2 月 6 日	倉庫等として、建物約 1,300 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 3 年 2 月 28 日	育児所として、建物約 1,500 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 4 年 5 月 14 日	契約更新拒否用地約 380 m ² を返還。
平成 4 年 7 月 2 日	隊舎として、建物約 7,400 m ² と工作物（舗床等）を追加提供。
平成 5 年 3 月 31 日	天願川改修工事用地約 12,500 m ² を返還。
〃	通信ケーブル用地約 1,700 m ² を返還。
平成 5 年 9 月 27 日	運動施設等として、建物約 20 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 6 年 9 月 23 日	ハワイ在の第 1 海兵遠征団司令部が解除され、残りの兵力は、ハワイ在住のまま第 3 海兵遠征軍に編入。
平成 7 年 6 月 1 日	工場等として、建物約 470 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 8 年 1 月 31 日	道路用地約 462 m ² を返還。
平成 9 年 9 月 30 日	市道用地約 230 m ² を返還。
平成 10 年 9 月 30 日	住宅用地約 490 m ² を返還。
平成 10 年 10 月 22 日	厚生施設として、建物約 330 m ² と工作物（囲障等）を追加提供。
平成 11 年 7 月 15 日	囲障等として、工作物（囲障等）を追加提供。
平成 11 年 11 月 4 日	隊舎として、建物約 2,600 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 12 年 4 月 13 日	諸標として、工作物（諸標）を追加提供。
平成 16 年 7 月 8 日	食堂等として、建物約 1,300 m ² と工作物（囲障等）を追加提供。
平成 16 年 11 月 4 日	工場等として、建物約 2,400 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 17 年 11 月 10 日	教育施設として、建物約 870 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 18 年 1 月 31 日	道路用地約 9,100 m ² を返還。
平成 29 年 3 月 1 日	環境負荷低減対策設備として、工作物（水道等）を追加提供。
平成 30 年 3 月 31 日	管理棟等として、約 980 m ² と工作物（囲障等）を追加提供。
令和 2 年 10 月 14 日	保安施設として、建物約 40 m ² と工作物（門等）を追加提供。
令和 3 年 7 月 14 日	保安施設として、建物約 150 m ² と工作物（門等）を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

<主要建物及び工作物>

建 物：司令部、将校クラブ、隊舎、車検場、厚生施設、管理事務所等、車両修理工場等、
補給倉庫等、食堂、家族住宅、売店、消防署、診療所、体育館、小学校ほか

工作物：保安柵、上下水道、着陸帯、駐車場、橋、自家発電設備、貯油槽、各種競技場ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

27.3 基地等の環境状況

27.3.1 自然環境（植物）

27.3.1.1 現存植生図

キャンプ・コートニー及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図B」に示す。

27.3.1.2 植生自然度図

キャンプ・コートニー及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図B」に示す。

27.3.1.3 特定植物群落

キャンプ・コートニー及び周辺において、特定植物群落の該当はない。

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成12年3月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

27.3.1.4 重要な種、貴重な種等

キャンプ・コートニー及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）は確認できなかった。

出典：「～平成27年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

27.3.2 自然環境（動物）

27.3.2.1 重要な種、貴重な種等

キャンプ・コートニーのあるうるま市で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、
重要な種、貴重な種等（動物）は46種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針〔沖縄島編〕」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

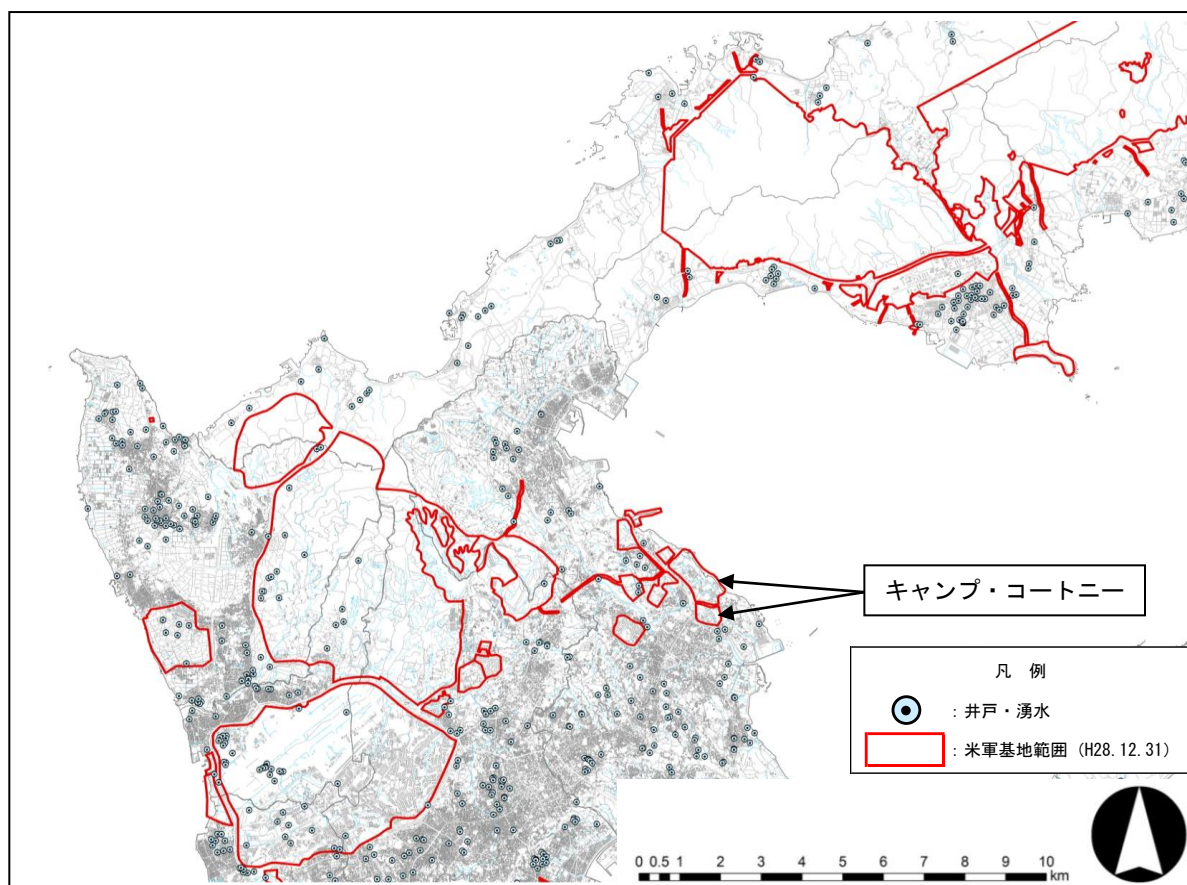
27.3.3.1 水利用狀況

[illegible]

図 27-6 沖縄島及び周辺の水利用状況

27.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

キャンプ・コートニー及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 27-7 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 27-7 キャンプ・コートニー及び周辺の井戸・湧水分布状況

27.3.3.3 河川及びダム分布状況

キャンプ・コートニー及び周辺の河川、ダム分布状況及びその概要を図 27-8、表 27-1 に示す。
キャンプ・コートニー及び周辺には、二級河川が 1 本ある。

なお、周辺に国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、 第 301 号）」
出典：「国土地理院地図（平成29年 3 月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、
「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照

図 27-8 キャンプ・コートニー及び周辺の河川、ダム分布状況

表 27-1 キャンプ・コートニー及び周辺の二級河川の概要

天願川水系	天願川	指定延長：11,900m	流域面積：31.61km ²
指定区間：（左岸）うるま市石川山城地先から海に至る			
（右岸）うるま市石川山城地先から海に至る			

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」掲載資料「2 級河川指定一覧表（平成 25 年 4 月 1 日現在）」を参照

27.3.4 地下水の状況

27.3.4.1 地下水基盤面等高線図

キャンプ・コートニー及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図 B」に示す。

27.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

27.4.1 事故等の概要

キャンプ・コートニー及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 27-2 に示す。キャンプ・コートニーでは、油流出による天願川の汚染や、汚水の漏出事故が確認された。

表 27-2 キャンプ・コートニー及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年月日	発生場所	概要	備考
昭和 49 年 2 月 12 日	具志川市 (現:うるま市)	キャンプ・コートニーのモータープールから多量の廃油が流出し、天願川を汚染した。※1	廃油による 河川の汚染
平成 7 年 7 月 24 日	具志川市 (現:うるま市)	キャンプ・コートニー内から天願川に油が流出した。原因は、マンホールの油水分離層の水がなくなったためである。※1	油流出
平成 7 年 11 月 2 日	具志川市 (現:うるま市)	キャンプ・コートニーの家族住宅地域で、タンクとボイラーを結ぶ3本のパイプから、天願川へ軽油が流出した。※1	油流出
平成 13 年 2 月	具志川市 (現:うるま市)	キャンプ・コートニー施設・水域内での過去のクレー射撃による鉛汚染が問題となった。※3	土 壌 汚 染 及 び水質汚染
平成 21 年 7 月 14 日	うるま市	キャンプ・コートニーにある基地内住宅近くからポンプの不具合により汚水が漏れ出し、11,300 ガロン (42,770 リットル) から16,400 ガロン (62,074 リットル) が排水溝から基地外に流出した。※2	汚水流出

出典: ※1 「沖縄の米軍基地」 (平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室)、
※2 「沖縄の米軍基地」 (平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課)、
※3 「沖縄の米軍基地」 (令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課) を参照

27.4.2 事故等発生場所

キャンプ・コートニー及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

27.5 環境調査を実施する場合の留意事項

キャンプ・コートニーにおいて、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- 1 汚水処理施設については、汚泥、施設周辺の土壌汚染調査を行う。
- 2 油流出事故が何件か発生しており、施設の管理に不備な点がみられることから、貯油タンク施設に関する情報及び過去の事故事例を勘案した上で、調査地点を選定し、地下水汚染調査及び土壌汚染調査を行う。

27.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下、「NARA」と言う。）で収集した在日米軍関係資料のうち、キャンプ・コートニー及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 27-3 に示す。

キャンプ・コートニー及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 27-3 キャンプ・コートニー及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1963 年 8 月 22 日	トレーニングエリア	文書	在沖米陸軍の訓練に関する資料。キャンプ・コートニーを含む演習場での訓練内容及び訓練位置について記されている。
1972 年 7 月 13 日	ヘリコプター・ゾーン	文書	LPD (Landing Transport Dock) や LPH (Landing Platform Helicopter) を使うときにヘリコプターが必要となるので、そのヘリコプター・ゾーンとして 1) キャンプ・ハンセン、2) キャンプ・シュワブ、3) ホワイト・ビーチ地区、4) キャンプ・コートニーがあったことが記されている。
1970 年 6 月 8 日	ガス室 (キャンプ・ハンセンのビル No. 2120)	文書	ガス訓練に関する資料。ガス訓練の義務化や、キャンプ・コートニー及びキャンプ・ハンセンでの訓練の実施、キャンプ・ハンセンのビル No. 2120 にガス室があったこと等が記されている。
1970 年 7 月 12 月	—	文書	海兵隊に関する雑誌。キャンプ・ハンセンを含むいくつかの基地の空中写真が掲載。
1962 年 8 月 15 日	—	写真	キャンプ・コートニーの建設状況を撮影した空中写真。
1970 年 9 月	—	写真	キャンプ・コートニーの空中写真。
1962 年 4 月 23 日 1970 年 9 月 1972 年 1974 年 7 月 1975 年 10 月 11 日 1976 年 3 月 20 日 5 月 12 日 年代不明	各種施設	写真	基地内の状況、施設の写真。下士官クラブ、輸送車エリア、部隊宿舎、将校宿舎の写真、第 3 海兵師団司令部ビル、第 3 海兵師団司令部、最高司令官会食室、第 3 水陸両用部隊 (III MAF = 3rd Marine Amphibious Force)、兵舎、キャンプ・コートニー、TE-1 ビル、兵曹長宿舎 (Warrant Officers)、クラブ「シーブリーズ」、クラブ「ベイビュー」、第 3 水陸両用部隊司令部、居住エリア、下士官兵の兵舎、モータープール、仮兵舎、兵曹長兵舎、記念碑、銘板、TE-1 ハウス、野球場、両替場、図書館、フットボール場、キャンプ天願。

27.7 環境等に関する通常監視について

在沖米軍施設・区域に起因する環境汚染を防止するため、沖縄県では基地排水等の監視、事故時の調査を実施し、水質汚濁の状況把握に努めている。

キャンプ・コートニーにおけるこれまでの調査で、基準に適合しなかった結果の概要を表 27-4、表 27-5 に示す。

表 27-4 米軍基地排水調査における基準不適合結果の概要

調査地点名	調査年月日	項目	値	基準
モータープール	昭和 52 年 7 月 22 日	油分	5.1ppm	排水基準
し尿処理場	昭和 51 年 7 月 16 日	大腸菌群数	$4 \times 10^5 \text{ coli/cm}^2$	排水基準
		油分	6.2ppm	排水基準
	昭和 52 年 1 月 19 日	BOD	187ppm	排水基準
	昭和 52 年 7 月 22 日	油分	15.2ppm	排水基準
	昭和 52 年 11 月 29 日	BOD	153ppm	排水基準
		油分	6.8ppm	排水基準
	昭和 56 年 2 月 10 日	油分	11ppm	排水基準
し尿処理施設	昭和 61 年 2 月 6 日	pH	4	排水基準
天願橋下	昭和 51 年 7 月 16 日	大腸菌群数	$4 \times 10^7 \text{ coli/cm}^2$	排水基準
		油分	53ppm	排水基準
排水口	昭和 55 年 2 月 12 日	油分	13.8ppm	排水基準

◆ 一律排水基準

pH（5.8 以上 8.6 以下）、BOD（日最大 160mg/L、日間平均 120mg/L）、
大腸菌群数（日間平均 3,000 個/cm³、令和 4 年 4 月から大腸菌数に改正）、
n-ヘキサン抽出物質含有量〔油分〕（鉱油類含有量：5mg/L、動植物油脂類含有量：30mg/L）

◆ これらの地点での調査は、現在実施していない。

出典：「環境白書」（昭和 51 年度報告～令和 5 年度報告、沖縄県）を参照

表 27-5 基地周辺公共用水域監視調査における基準不適合結果の概要

調査地点名	調査年月日	項目	値	基準
処理施設排水口付近海岸	昭和 61 年 1 月 16 日	pH	8.5	海域：A 類型
処理施設排水口付近	昭和 61 年 12 月 18 日	pH	8.5	海域：A 類型
海中排水口付近	平成 25 年 1 月 9 日	pH	7.6	海域：A 類型

◆ 生活環境項目に係る環境基準

海域（A 類型）：pH（7.8 以上 8.3 以下）

◆ これらの地点で調査は、平成 26 年度から米軍基地内への立入が認められておらず、実施できていない。

出典：「環境白書」（令和 51 年度報告～平成 25 年度報告、沖縄県）を参照